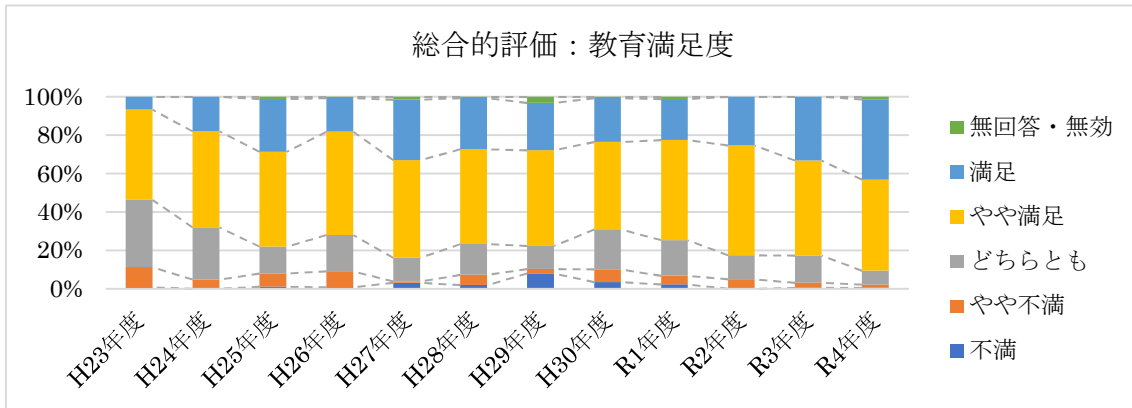


令和4年度卒業論文提出時調査結果概要

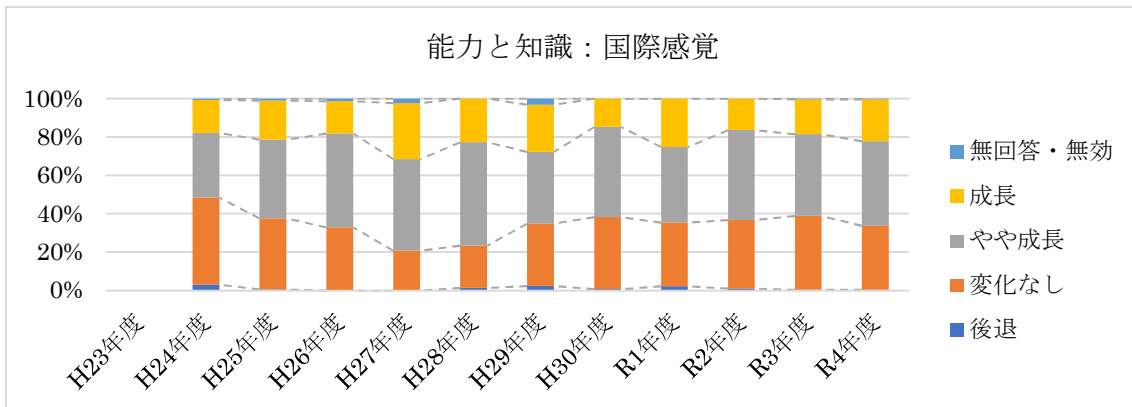
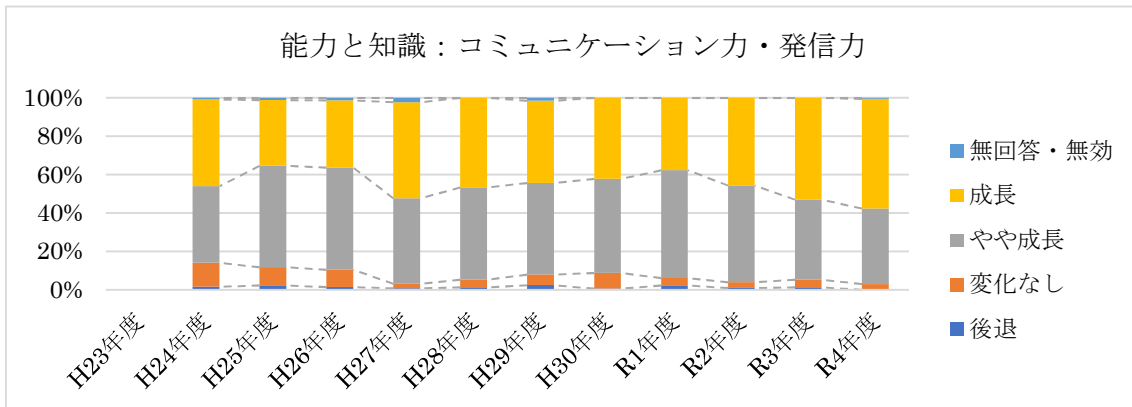
公益学部では、卒業論文を提出する4年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

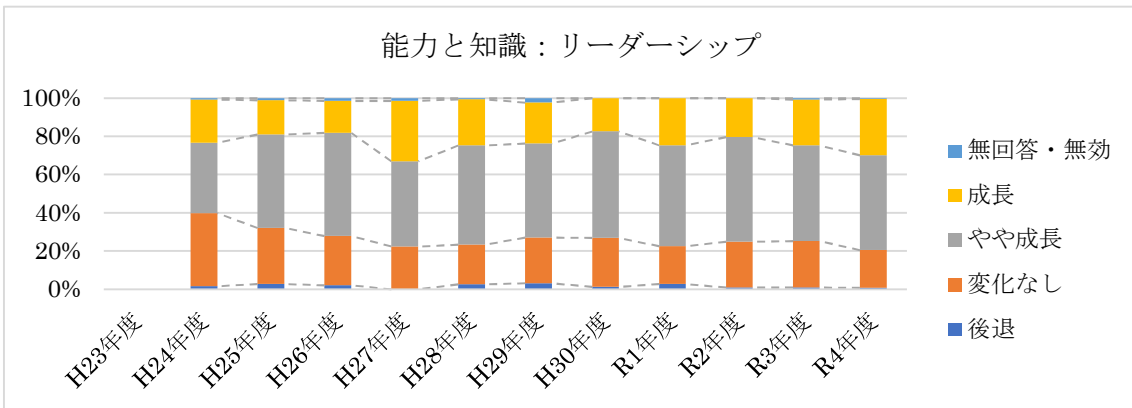
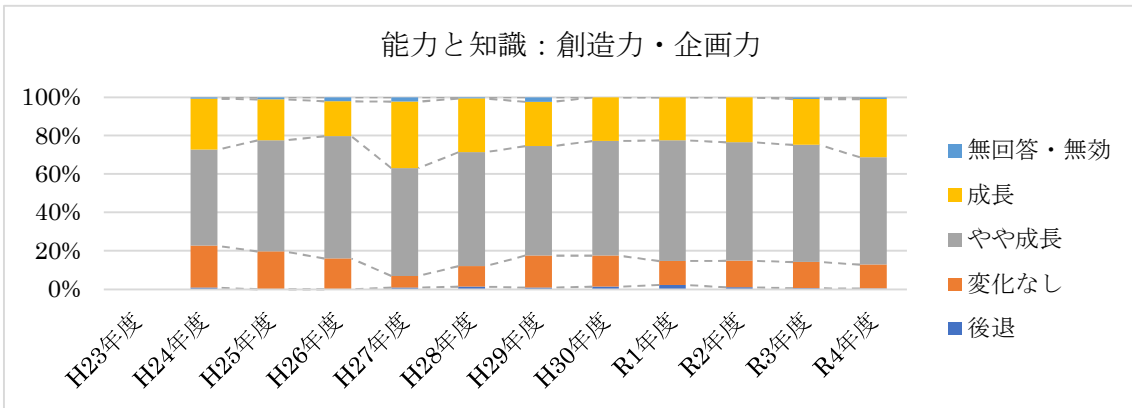
令和4年度（令和5年1月回収）は回収率100%（234名）であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

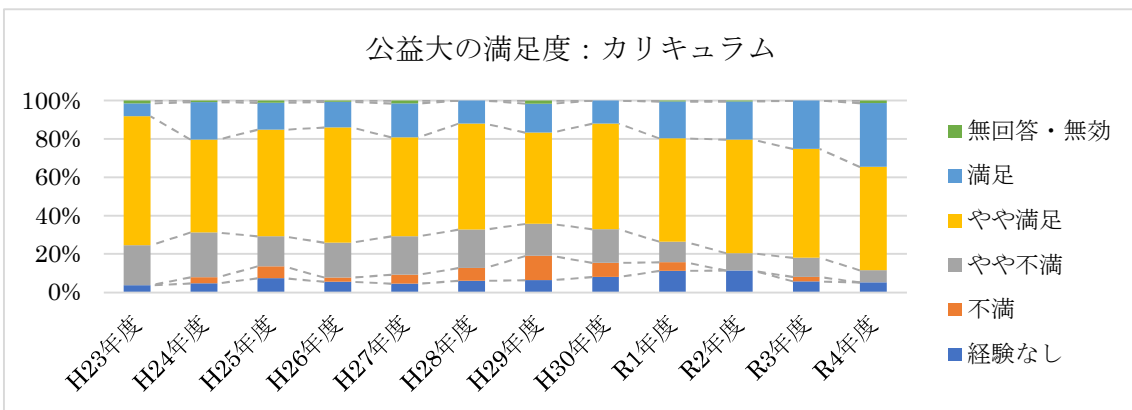


「満足」と回答した割合が4割を超え、3年前の21.3%から実に20.6%も増えた。「やや満足」と合わせても89.3%で、直近12年間で最高となった。対象学生はコロナ禍で様々な不利益を被った学年であるにもかかわらず、公益学部の教育を高く評価していた。





ディプロマポリシーに掲げる「コミュニケーション力・発信力」「国際感覚」「創造力・企画力」「リーダーシップ」の4つの力のすべてで「成長」と回答した割合が1年前より増え、「創造力・企画力」では3割を超え、「リーダーシップ」でも29.5%となった。「やや成長」と合わせると「コミュニケーション力・発信力」が96.6%、「国際感覚」が65.8%、「創造力・企画力」86.3%、「リーダーシップ」が79.1%となっている。



3人に1人(33.3%)が「満足」と回答しており、3年前の19.1%から大幅に改善した。「やや満足」と合わせた割合も87.2%で、これも直近12年間で最高となった。「教育満足度」と同様、学生から高い評価を得ることができたが、「満足」の回答の割合をさらに向上させるべく、今後とも教育改善の取り組みを続けていく。